

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名 石崎直人

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

微生物学総論では微生物を構成する細菌・真菌・ウイルスの基礎的なことを学び理解し、説明が出来るようにする。微生物学実習では細菌の操作法を習得し、培養ができるようにする。臨床微生物実習と病原微生物学実習では病原微生物を培養し、菌種の同定ができるようにする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
微生物学総論	臨床検査技術学科	必修	2	127
微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	2	127
微生物学実習	食品生命科学科	必修	2	56
微生物学実習	環境科学科	必修	2	70
臨床微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	3	88
環境・病原微生物学	環境科学科	必修	3	64
病原微生物学実習	食品生命科学科	必修	2	56
病原微生物学実習	環境科学科	必修	3	64
基礎化学実験	臨床検査技術学科	必修	1	84
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	75
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	75
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	2～4	9
科学者・研究者論	環境保健学専攻	必修	1	21

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

我々は生きていく中で日々病原微生物の脅威にさらされている。メディアでは多剤耐性結核菌、新型コロナウイルス、サル痘ウイルスなどの病原体の名前が多く見かけられる。2023年2月にはギニアにおいて初めてマールブルグウイルス病の症例が報告された。これらの名前を見た時に、なぜ問題となっているのか、どのように身を守ればよいのかなどを自ら考え、解決法を導くことが出来る人間になってもらいたい。新型コロナウイルスについての情報が流されるときに、付随してくる文言に「抗原定性法、mRNAワクチン、Real-Time PCR法」等が挙げられる。これらの文言が解らないときには積極的に調べ、自分の肥やしにしてもらいたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・授業の最後に小テストを実施し、最低限重要な項目を必ず覚えてもらう。達成度から判断し、実施時間を変更する場合もある。
- ・配布資料にはなるべく写真などを多用する。
- ・授業は配布資料の穴を埋めながら進める。
- ・2回目以降の授業冒頭では前回の重要な箇所を端的に説明する。

（１）アクティブ・ラーニングについての取組

有

學利に載せる資料を用いて事前に予習をしてもらう

（２）ICTの教育活用

有

パワーポイントのスライドショーを用いて穴埋め式で授業を実施し、授業内容は録画をして學利に載せる

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

より広くサイエンスの情報に目を向け、最新情報を授業に反映させる。

（２）学生の理解度の把握

A

授業の最後に小テストを実施している。正解率の低い設問については解説をし、次回の小テストにも出題する。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

學利に資料をより早く載せ、自学へとつなげたい。

（４）学生とのコミュニケーション

A

学生の質問はほぼメールで来る。返信内容が一方的により威圧的にならないように注意をする。

（５）双方向授業への工夫

C

実習では実験の結果を班ごとに発表をしてもらい、理解度を上げさせる。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

学生の苦手な分野を確認し、視覚的に頭に入るように写真や画像を今以上に入れる。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

動画に関する意見がほぼ無かったので、動画で復習が出来易いように授業を進めた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

例年では認められないくらい動画が役に立つとの意見が挙げられていた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

より授業動画が分かりやすくなるように努力したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業の冒頭に微生物に関する最新情報を話すようにして、少しでも微生物に興味を持つようにした。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

最新情報にふれることで微生物を身近に感じることが出来るとの記載がされた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

FD講演会やFD研修に参加し、授業に反映できるようにした。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期目標：国家試験の合格率を90%台に戻す。

長期目標：国家試験の合格率を100%にする。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、學理を用いた小スト、配付資料